

行政視察等報告書

令和2年1月20日

米子市議会議長様

会派名 信風
代表者氏名 中田利幸
提出者氏名 伊藤ひろえ



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	中田利幸、安達卓是、伊藤ひろえ
期日	令和2年1月14日から令和2年1月15日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	1月14日 福井県小浜市 「日本遺産活用事業」及び「キッズキッチン」 について 1月15日 兵庫県神戸市 「防災福祉コミュニティ事業」について
〔所感〕	別紙のとおり
経費	旅費総額 117,750円

小浜市視察報告

日本遺産『御食国若狭と鯖街道活用事業』について

(令和2年1月14日) 14:00～15:30

御食国若狭おばま食文化館
教育委員会 文化課 下中氏

〔概要〕

江戸時代になってから、小浜市は鯖がとれるようになった。小浜から京都に鯖を運んだことから、その道は「鯖街道」と親しまれてにぎわった。(御食国若狭と鯖街道は日本遺産第1号に認定) 京都は現在でも、晴れの日には「鯖寿司」を食べることから、京都の有名料理人・料理研究家・美食家とタッグを組んで「小浜鯖」をブランド化。しかし、鯖の水揚げは昭和49年をピークに激減したため「小浜 鯖復活プロジェクト」鯖の養殖を主に、刺身で食べるよっばらいサバのブランド化、伝統料理(へしこ・なれずし)の復興など・・・日本遺産として認定される。(鯖街道は周知されてきたが、今後は、御食国若狭をアピールしていく考え)

わかりやすく伝わるストーリーとともに事業を展開していく。ターゲットを明確にし、そこにマッチするプログラムを提供する。行政の枠をこえて、小浜観光局と行政の連携により民間的手法で次々と取り組みを広げていく。

平成13年の食のまちづくり条例を機に、経済・福祉・観光・教育など全ての事業と食をつなぐ先駆的な取り組みで、京都のブランド力をマーケティングとしてどう位置づけるかをポイントとして取り組む考えがある。修学旅行では小浜から京都まで鯖街道を歩くと言うものもある。学校給食は全て自校方式で、学校ごとに生産者を決めるため地元生産者グループの小ロットの農作物も地産地消の取り組みの中で活用される。

〔所感〕

人口3万人弱の市ではあったが「食のまちづくり」に特化した、またそこから広げた事業は魅力がありそこに住む市民も輝きのある市であった。DMOとの連携で、民間手法的なところは本市だけではなく民間や他団体と連携を強化したなかで大いに参考となる取り組みだった。今後はSNSの発信により欧米客へアピールということも興味深かった。日本海沿岸に位置することから、互いに似た海産物や農産物があったが、私たちももっと活用し、ブランド力を高める必要があると感じた。そして、子どもたちに対する食育の取り組みも参考となった。



御食国若狭おばま食文化館で説明を受ける

小浜市視察報告

『キッズキッチン』事業について

(令和2年1月14日) 15:30～16:15

御食国若狭おばま食文化館
小浜市 企画部 食のまちづくり課 課長
御食国若狭おばま食文化館 館長
小浜市政策専門員 (食育)
中田 典子氏

〔概要〕

まずはキッズキッチンが行われている様子をパワーポイントで観る。基礎編は、市内の全園年長が小学校高学年家庭課の調理実習で行う内容を義務教育として位置づけ、その経費は市が負担する。拡大編は、市内外の参加者が食育ツーリズムとして位置づけ、毎回異なるテーマ（魚さばきや行事食等）で有料となる。運営はキッズサポーターが、事前の入念な準備のもとマニュアル通りに展開していく。保護者は、一切口出しや手出しをしないようにキッチンスタジオの外で見守るのみ。包丁やテーブルの高さなど、こどもたちにとって一番望ましいものを使用する。

キッズキッチンは一般的なこどもの料理教室ではなく、「料理で教える教育プログラム」である。こどもたちが、ひとつひとつの行程を主体的に取り組むことで「達成感」「満足感」「協調性」「自立心・自律心」等の獲得をめざす。

キッズキッチンの終わりには、参観していた保護者と一緒に料理をいただく場面となるが、保護者もこどもとともに感動し忘れられない成功体験となる。

2015ミラノ国際博覧会に出展された他、さまざまな場面で評価されている。

〔所感〕食のまちづくり条例の中でも和食にこだわり、日本人が「いただきます」と言うように「命をいただく」という体験を通し、こどもたちの生きる力を育む教育だと実感できた。また、職員の情熱と小浜発の取り組みを広げたいという前向きな姿勢に感動した。5歳児が最も効果的だということも担当者が明確に語っていた。このキッズキッチンの取り組みで、こどもから保護者や家庭に対して「料理・食べる」というツールで、影響が期待される点も納得できた。小浜市のように素晴らしい食文化館やキッチンスタジオを建設することは難しいが、その取り組みを活かすことは教育プログラムとして有益であると思った。



キッチンスタジオを背景に

神戸市行政視察報告

「防災福祉コミュニティ事業」について

(令和2年1月15日) 13:00～14:30

神戸市消防局

神戸市消防局 予防部 予防課長 消防司令長 富士田和正氏

説明：神戸市消防局 予防部 予防課 消防司令補 尾曲伸乃祐氏

〔概要〕

まず、25年前1月17日の震災の映像をパワーポイントで観る。縦揺れ（つきあげ）だったため、1階部分そのまま潰れてしまうのが特徴的だった。1月という冬の時期、早朝5時という時間帯もあり、その後、火災が多発（54ブロック）したが、消火活動は思うように進まず、結局、約81万平米、7386棟が焼け、戦後の焼け野原のような光景であった。この数字は、神戸市の年平均3千平米の火事と比較すると20年分以上となる。

地震では、全壊・半壊で約164000人が生き埋めとなった。そのうち、自助79%、共助16%、公助5%となり、自助あるいは近隣住民の共助が重要だと認識された。

神戸市は、この教訓を活かし、消防士を約300人増員（現1500人体制）、自主防災に関する事務も消防士が担うこととなる。小学校単位で、自主防災協議会を起ち上げ、地区担当の消防士を配置し、資機材の整備、地域リーダーの育成等、地域防災力の向上のため、福祉等のボランティアに呼びかけ市民協働による「市民の防災力強化」を図った。（*防災と福祉団体との融合）

要援護者の名簿に関しても、名簿に掲載してほしくないと明確に示した人以外（返事がなかった方々）は、要援護者の名簿に入れ防災関係者や福祉関係者に配布していることも、先駆的な取り組みとなっている。

〔所感〕

自主防災組織、防災福祉コミュニティ事業を担当しているのが、消防士であるということにまず驚いた（消防を広域でもっている本市と異なり、市が消防をもっている神戸市ならではの）

大きな震災で壊滅的な打撃を受けたにもかかわらず、復興を果たしてきた神戸市の取り組みを改めて実感できた。消防士の地区担当制は、地域防災において、その育成や活性化に大変効果があると感じたが、米子市においては工夫して取り組む必要がある。震災後、消防士による1軒1軒の訪問がなされたと聞いたが、そのような取り組みも現在の地域防災に活かされていると思った。25年経った今、災害を風化させることのないよう、高齢化社会を念頭に置き取り組みを続けていくと説明があった。大変有意義な視察であった。

行政視察行程 (会派：信風 3名)

月 日	行 程	宿 泊 先
1 / 1 4 (火)	<p>7:28 伯耆大山駅 9:38 岡山駅 10:54 11:10 京都駅 12:01 12:20 教賀駅 13:22 小浜駅 会場 (送迎)</p> <p>JR 特急やくも6号 JR 新幹線のぞみ12号 JR 特急サンダーバード17号 JR 小浜線・東舞鶴行</p> <p>小浜市行政視察 午後2時00分から午後4時15分まで 【議会事務局】 ☎0770-64-6035</p> <p>【調査項目】「日本遺産活用事業」及び「キッズキッチン」について <small>みけつくに</small> 場所：御食国若狭おばま食文化館 ※キッズキッチン視察資料代 計3,000円</p>	ホテルせくみ屋 ☎0770-52-0020
1 / 1 5 (水)	<p>8:15 小浜駅 9:29 教賀駅 11:06 11:15 大阪駅 11:36 三ノ宮駅 *** 市役所 (徒歩)</p> <p>JR 小浜線・教賀行 JR 特急サンダーバード12号・大阪行 JR 神戸線新快速・姫路行</p> <p>神戸市行政視察 午後1時00分から午後2時30分まで 【市会事務局】 ☎078-322-5853</p> <p>【調査項目】「防災福祉コミュニティ事業」について 場所：神戸市役所・4号館3階</p>	
	<p>15:23 三宮駅 (市営) 15:25 新神戸駅 16:14 17:04 岡山駅 19:15 伯耆大山駅</p> <p>神戸市営地下鉄西神・山手線・谷上行 JR 新幹線のぞみ111号 JR 特急やくも21号</p>	

旅費計算表

令和2年1月14日 ~ 令和2年1月15日 (1泊2日)

信風 会派行政視察

福井県小浜市・兵庫県神戸市

月 日	区間	鉄道路線名	区キ	間数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急	行料		日	宿		泊料
									別	新幹線		議員1,500円	随員1,100円	
1/14	伯耆大山駅 ~ 岡山駅	JR				10,480	阪神早得制				議員1,500円	随員1,100円	10,900円	9,800円
(火)	~ (新大阪駅)	JR												
	~ 京都駅	JR				3,410				2,500				
	~ 敦賀駅	JR						860						
	~ 小浜駅	JR												
1/15	小浜駅 ~ 東舞鶴駅	JR				4,070						1,500		
(水)	~ 大阪駅	JR												
	~ 三ノ宮駅	JR						2,390						
	三宮駅 ~ 新神戸駅	市営												
	~ 岡山駅	JR				210								
	~ 伯耆大山駅	JR												
計	議員 旅費				36,270	18,170	0	3,250	2,500	3,000		0		9,350
	随員 旅費				0									

出席議員 中田利幸、安達卓是、伊藤ひろえ

議員旅費 36,270 × 3名 = 108,810 円
 資料代 1,000 × 3名 = 3,000 円 (小浜市)
 お土産代 2,970 × 2カ所 = 5,940 円 (小浜市、神戸市)
 旅費総額 117,750 円